

高校生の取り組みの様子

2日目の午前の企画、朝一番の指示は、①河合雅雄氏（霊長類学者）の談話記事（4p）を読んで住まいについての認識を深めること、②今までで一番の住まいでの思い出の描写と分析、住まいについて自分が重要と思うことの分析（ワークシート（A3）記入）であった。大学生や社会人であればよいが、（特に予備知識のない）高校生には随分難しい課題のように思われた。各自の頭の中に潜在するイメージを独力で繋ぎ合わせ、具体化し言語化するの、容易な作業ではない。生徒達にはよい訓練であるが、困難な作業であることは否めない。案の定②のワークシートについては筆が進まず、与えられた35分の時間を使わずに思考を止めてしまった生徒が男女とも若干名見られた。一方で、ぎりぎりまで考え抜き、ワークシート一杯に書き付けていた生徒も多数いたのは頼もしい。

住まいについて自分が重要と思うこととして、①安全性（耐震性・防犯性など）、立地条件の良さ、住みやすさ・快適さといった機能面と、②暖かさ、人の心を結びつけること、落ち着きをもたらすことといった心理面について多く生徒が言及していたと思う。近代建築がこの100年程のうちに課題としてきたことのおおよそが、26名の生徒の記述の中から拾うことのできたことは興味深い。

ワークシートの作業と小松先生の講義を受けた話し合い・発表では、住まいについて必要なことを漢字3文字でまとめるグループ作業。4名程度のグループでの話し合いでは全てのグループが予定の35分間中熱中した。住まいを色々な観点から見て、自分の住まいしか知らない視点から「ときはなつ」ことができたであろう。発表された漢字は、①「寝・技・泰」（快適さ・デザイン・安全性）②「爽・健・美」（日当たり・安全性・外見）③「快・楽・強」（快適さ・楽しさ・便利さ・災害や犯罪への強さ）④「快・色・適」（快適さ・自分の世界・最適な機能）⑤「和・我・郷」（「我」は個人的なスペース）⑥「快・関・境」（「境」は境界、外界の危険からの防御）であった。発表は6グループ合わせて15分程度であったが、発表を元にして討論をしたらどんな展開があったろうか。時間の制約が残念であった。

最後に高校生に合わせた内容を考えてくださり、優しく明瞭な口調で語りかけてくださった小松先生に厚くお礼申し上げます。加えてTAの卒業生3名が深い学び合いに貢献してくれたことも申し添えます。ありがとうございました。

（附属学校教諭 寺井一）

